

現地（宮城県）を訪問して想うこと

1970年3月理工学部化学科卒

河田美喜夫

東北復興応援ツアー（宮城県コース）に参加させて頂きました。1970年3月理工学部化学科卒の河田美喜夫です。私は災害時の被災者支援活動、日常からの防災・減災活動に取り組んでいるNPO法人レスキューストックヤード（RSY）の会員として2007年から籍を置いています。日常は何の活動もしていなく、専ら会報でボランティア活動を見守り、情報収集と問題点を考え、後方応援部隊に徹しています。

東北仙台には過去数度観光目的で、訪れたことがあります。丁度東北大震災が起こった1年前、蔵王、松島、気仙沼を巡り、その時に地震およびホテル火災に遭遇し避難した覚えがあります。その時の気仙沼と現在の気仙沼および名取市では雲泥の差があり、実際にこの眼で見て被害の大きさを改めて痛感し、本当に良かったと感じている次第です。

政府・自治体の復興支援の在り方（政策）に運用面を含めて今まで以上の疑問を感じました。指導力を発揮し、被災者の目線でもっと大胆で積極的かつ迅速な支援が必要と感じました。

また、ハード面（道路・住宅等の社会基盤・インフラ整備）での復興は時間がかかっているものの徐々に始まっていますが、ソフト面（被災者の精神面）支えはハード面に比べ、更に遅れておりハード面以上の課題であると考えます。今回は復興住宅（仮設住宅）を訪問できず、仮設住宅に今も留まらざるを得ない人の苦しい現実の生活および生の声を聴けず誠に残念でした。次回の計画時にはぜひ検討して欲しいと思います。

NPO法人RSY（レスキューストックヤード）の各地でのこれまでの活動・情報・経験を通じてソフト面（被災者の精神面）の支えが重要であり、未永い継続的な支援が今後増々重要になると思います。

我が立命館のこの活動も長期的スパンで地道な活動ができるよう継続して頂くことを切望します。

最後になりましたが、立命館大学、立命館大学宮城県校友会の皆さん、被災の現状について話をしてくださったOB・OGの佐々木さんご夫妻、南三陸ホテル観洋の阿部女将、今回のツアーを企画し同行してくださった立命館大学職員の方古市さん、今回のツアーに参加した校友会仲間に感謝します。皆さんのこれから益々のご健勝を期待します。